



2007年12月22日発行

主イエスキリストのご降誕をお祝い申し上げます。

テキサス州第2の都市ヒューストンに行き、郊外のウッドランドにある米人教会で開かれたクリスマス・コンサートを楽しんできました。長男の道夫家族がHCJB音楽宣教師として20年間奉仕したあと、この教会へ派遣され、教会としてははじめてのクリスマス・コンサートに挑戦することになったのです。当日は教会の音楽スタッフにまじって「イエスの誕生」の意義をさぐりながら、賛美とメッセージで織りなす音と色と言葉の一大シンフォニーをくりひろげ大成功。道夫はピアノ。夫人のアンマリーは聖歌隊で活躍。最後の「ハレルヤ・コーラス」は南部にふわさわしくアップテンポとシンコペーションの編曲で会衆を興奮させました。



「こちらヒューストン」のコールサインで知られる月ロケット探検の基地宇宙センターも見学しました。原寸大のスペース・シャトルが航空機並みの大きさで圧倒されたのと、遠望の月の石が目の前にあることに感動をおぼえてきました。宇宙にかける人類のロマンはまだまだ広がりそうです。

シカゴ市内の日本人教会でクリスマスの礼拝のときに、一人の紳士が近づいてこられました。「私は落合と申します。《アンデスの声》は中学生のときに日本で、1977年に渡米してからも北米で受信していました。今日はハム仲間に教えてもらったので会いにきました。こんどはその友人も連れてきたいと思います。」ここでも往年の短波ファンとの「ふれあい」がありました。

2007年はみなさまにとってどういう年でしたか。さまざまな出来事があったことでしょう。私にとっては、オーストラリアからの放送が続けられたことと、《日本ふれあいの旅》が実現できたことが最大の出来事でした。送信機の不調や誤送信の不手際などでときどきご迷惑をおかけしたこともありましたが、理解あるリスナーの皆様のご協力により、すみやかに善後策を講ずることができたことを感謝しています。使用周波数が一本だけという綱渡り的な放送でしたが、受信状態は比較的安定していてリスポンスも多くありました。皆様からの一通、一通は放送のライフ・ラインです。ただし心ならずも、人手不足のため返信が遅れがちであったことは深くお詫びいたします。

来る年も、東京淀橋教会のスタッフともども、新たな抱負と希望に胸をふくらませながらシカゴ・スタジオから番組をおとどけしてまいります。どうか旧年同様よろしくお願い致します。

では、よいお年を！

HCJB日本語放送担当

在主 尾崎一夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時： 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 – 0800 (2230 – 2300UTC)
送信周波数： 15525 kHz (19mb)
受信報告書の宛先： 〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2007 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
